

平成 1 9 年  
国民健康・栄養調査結果の概要

健康局総務課生活習慣病対策室

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、健康増進法（平成14年法律第103号）に基づき、国民の身体  
の状況、栄養素等摂取量及び生活習慣の状況を明らかにし、国民の健康の増  
進の総合的な推進を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

## 2. 調査対象及び客体

調査の対象は、平成19年国民生活基礎調査において設定された調査地区内  
の世帯の世帯員で、平成19年11月1日現在で満1歳以上の者とした。

調査の客体は、平成19年国民生活基礎調査において設定された調査地区か  
ら、層化無作為抽出した300単位区内の世帯及び世帯員とした。

調査実施世帯数は、3,586世帯であり、集計客体数は下記のとおりである。

総数	総数	1-6歳	7-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
身体状況調査	8,000	431	690	338	541	1,056	1,001	1,183	1,345	1,415
血液検査	4,018	-	-	-	207	590	558	714	937	1,012
栄養摂取状況調査	8,885	488	795	393	665	1,201	1,107	1,268	1,426	1,542
生活習慣調査	8,119	-	-	443	720	1,262	1,200	1,399	1,495	1,600

男性	総数	1-6歳	7-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
身体状況調査	3,662	218	331	173	238	453	467	537	620	625
血液検査	1,625	-	-	-	89	200	210	265	413	448
栄養摂取状況調査	4,164	243	392	201	304	540	537	587	664	696
生活習慣調査	3,759	-	-	225	324	570	575	655	699	711

女性	総数	1-6歳	7-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
身体状況調査	4,338	213	359	165	303	603	534	646	725	790
血液検査	2,393	-	-	-	118	390	348	449	524	564
栄養摂取状況調査	4,721	245	403	192	361	661	570	681	762	846
生活習慣調査	4,360	-	-	218	396	692	625	744	796	889

### 3. 調査項目

#### 1) 身体状況調査票

- ア. 身長、体重（満1歳以上）
- イ. 腹囲（満6歳以上）
- ウ. 血圧（満15歳以上）
- エ. 血液検査（満20歳以上）
- オ. 1日の運動量〈歩数〉（満15歳以上）
- カ. 問診〈服薬状況、運動〉（満20歳以上）

#### 2) 栄養摂取状況調査票（満1歳以上）

世帯員各々の食品摂取量、栄養素等摂取量、食事状況〈欠食・外食等〉

#### 3) 生活習慣調査票（満15歳以上）

食生活、身体活動・運動、休養（睡眠）、飲酒、喫煙、歯の健康等に関する生活習慣全般を把握した。特に平成19年調査では、健康日本21における「休養・睡眠」及び「糖尿病」分野推進の基礎データとするため、休養・睡眠の状況について把握するとともに、糖尿病の実態についても把握した。

### 4. 調査時期

- 1) 身体状況調査：平成19年11月
- 2) 栄養摂取状況調査：平成19年11月の特定の1日（日曜日及び祝日は除く）
- 3) 生活習慣調査：栄養摂取状況調査日と同日

### 5. 調査方法

- 1) 身体状況調査：調査対象者を会場に集めて、調査員である医師、管理栄養士、保健師等が調査項目の計測及び問診を実施した。
- 2) 栄養摂取状況調査：世帯毎に調査対象者が摂取した食品を秤量記録することにより実施し、調査員である管理栄養士等が調査票の説明、回収及び確認を行った。
- 3) 生活習慣調査：留め置き法による自記式質問紙調査を実施した。

### 6. 調査系統

調査系統は次のとおりである。

厚生労働省－都道府県・保健所設置市・特別区－保健所－国民健康・栄養調査員

この調査結果に掲載している数値は、四捨五入のため、内訳合計が総数に合わないことがある。

## Ⅱ 結果の概要

### 第 1 部 糖尿病等の状況

#### 1. 糖尿病

表 1 解析対象者

(人)

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	(再掲) 40～74歳
総数	4,003	204	589	557	711	934	1,008	2,624
男性	1,619	88	200	210	264	411	446	1,082
女性	2,384	116	389	347	447	523	562	1,542

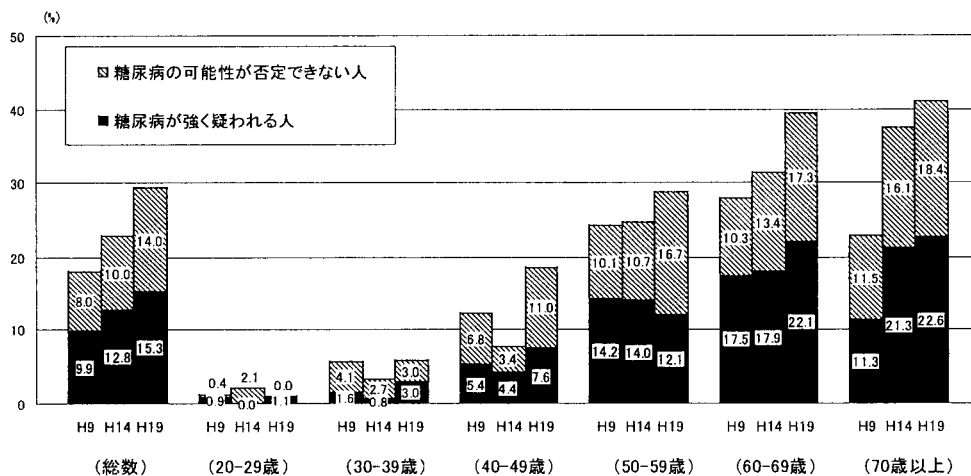
ヘモグロビンA1cの測定値がある者を解析対象とした。

#### 1-1. 「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性が否定できない人」の状況

▼「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性が否定できない人」の判定▼ (糖尿病実態調査(H9, H14)と同様の基準)  
 ①「糖尿病が強く疑われる人」とは、ヘモグロビンA1cの値が6.1%以上、または、質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人である。  
 ②「糖尿病の可能性が否定できない人」とは、ヘモグロビンA1cの値が5.6%以上、6.1%未満で、①以外の人である。

図 1 「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性が否定できない人」の年次推移

**男**



**女**

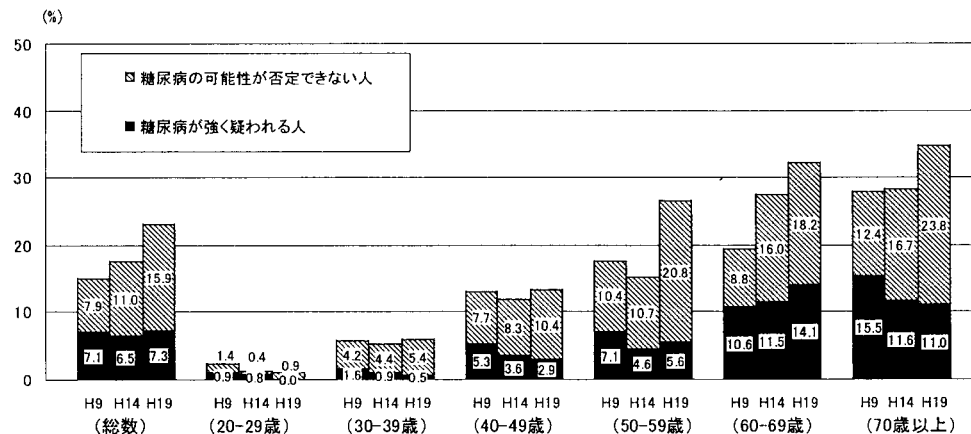


表2 「糖尿病が強く疑われる人」および「糖尿病の可能性が否定できない人」の割合

	総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		(再掲) 40-74歳		
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
総数	糖尿病が強く疑われる人	420	10.5	1	0.5	8	1.4	26	4.7	57	8.0	165	17.7	163	16.2	318	12.1
	(うち服薬者) <sup>※</sup>	193	4.8	1	0.5	2	0.3	11	2.0	13	1.8	88	9.4	78	7.7	149	5.7
	糖尿病の可能性が否定できない人	606	15.1	1	0.5	27	4.6	59	10.6	137	19.3	166	17.8	216	21.4	443	16.9
	上記以外	2,977	74.4	202	99.0	554	94.1	472	84.7	517	72.7	603	64.6	629	62.4	1,863	71.0
	総数	4,003	100.0	204	100.0	589	100.0	557	100.0	711	100.0	934	100.0	1,008	100.0	2,624	100.0
男性	糖尿病が強く疑われる人	247	15.3	1	1.1	6	3.0	16	7.6	32	12.1	91	22.1	101	22.6	186	17.2
	(うち服薬者) <sup>※</sup>	120	7.4	1	1.1	2	1.0	8	3.8	8	3.0	50	12.2	51	11.4	94	8.7
	糖尿病の可能性が否定できない人	226	14.0	0	0.0	6	3.0	23	11.0	44	16.7	71	17.3	82	18.4	170	15.7
	上記以外	1,146	70.8	87	98.9	188	94.0	171	81.4	188	71.2	249	60.6	263	59.0	726	67.1
	総数	1,619	100.0	88	100.0	200	100.0	210	100.0	264	100.0	411	100.0	446	100.0	1,082	100.0
女性	糖尿病が強く疑われる人	173	7.3	0	0.0	2	0.5	10	2.9	25	5.6	74	14.1	62	11.0	132	8.6
	(うち服薬者) <sup>※</sup>	73	3.1	0	0.0	0	0.0	3	0.9	5	1.1	38	7.3	27	4.8	55	3.6
	糖尿病の可能性が否定できない人	380	15.9	1	0.9	21	5.4	36	10.4	93	20.8	95	18.2	134	23.8	273	17.7
	上記以外	1,831	76.8	115	99.1	366	94.1	301	86.7	329	73.6	354	67.7	366	65.1	1,137	73.7
	総数	2,384	100.0	116	100.0	389	100.0	347	100.0	447	100.0	523	100.0	562	100.0	1,542	100.0

※「服薬者」とは、質問票で「インスリン注射または血糖を下げる薬」の使用有と回答した者。

1-2. 「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性が否定できない人」の推計

今回の調査結果に平成19年10月1日現在推計の男女別、年齢階級別の20歳以上人口(全体約1億400万人)を乗じて推計したところ、糖尿病が強く疑われる人は約890万人、糖尿病の可能性が否定できない人を合わせると約2,210万人と推計された(表3)。

表3 「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性が否定できない人の推計」(平成19年)

	平成19年
「糖尿病が強く疑われる人」	約890万人
「糖尿病の可能性が否定できない人」	約1,320万人
「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性が否定出来ない人」の合計	約2,210万人

(参考)表4 「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性が否定できない人」の推計(平成9年,平成14年)

	平成9年	平成14年
「糖尿病が強く疑われる人」	約690万人	約740万人
「糖尿病の可能性が否定できない人」	約680万人	約880万人
「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性が否定できない人」の合計	約1,370万人	約1,620万人

(参考)

本報では、「糖尿病の可能性が否定できない人」の判定を糖尿病実態調査（H9, H14）と同様の基準（ヘモグロビンA1cの値が5.6%以上、6.1%未満）を用いて行っているが、老人保健事業の健康診査では、ヘモグロビンA1c値5.5%以上を「要指導」としているため、「糖尿病の可能性が否定できない人」について、ヘモグロビンA1cの値が5.5%以上、6.1%未満で判定した値についても参考値として示す。

表5 「糖尿病が強く疑われる人」および「糖尿病の可能性が否定できない人」の割合  
（「糖尿病の可能性を否定できない人」のヘモグロビンA1cの値が5.5%以上、6.1%未満の場合）

※「服薬者」とは、質問票で「インスリン注射または血糖を下げる薬」の使用有と回答した者。

	総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		(再掲) 40-74歳		
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
総数	糖尿病が強く疑われる人	420	10.5	1	0.5	8	1.4	26	4.7	57	8.0	165	17.7	163	16.2	318	12.1
	(うち服薬者)*	120	3.0	1	0.5	2	0.3	11	2.0	13	1.8	88	9.4	78	7.7	149	5.7
	糖尿病の可能性が否定できない人	844	21.1	3	1.5	46	7.8	86	15.4	179	25.2	234	25.1	296	29.4	614	23.4
	上記以外	2,739	68.4	200	98.0	535	90.8	445	79.9	475	66.8	535	57.3	549	54.5	1,692	64.5
	総数	4,003	100.0	204	100.0	589	100.0	557	100.0	711	100.0	934	100.0	1,008	100.0	2,624	100.0
男性	糖尿病が強く疑われる人	247	15.3	1	1.1	6	3.0	16	7.6	32	12.1	91	22.1	101	22.6	186	17.2
	(うち服薬者)*	120	7.4	1	1.1	2	1.0	8	3.8	8	3.0	50	12.2	51	11.4	94	8.7
	糖尿病の可能性が否定できない人	314	19.4	1	1.1	15	7.5	33	15.7	60	22.7	92	22.4	113	25.3	227	21.0
	上記以外	1,058	65.3	86	97.7	179	89.5	161	76.7	172	65.2	228	55.5	232	52.0	669	61.8
	総数	1,619	100.0	88	100.0	200	100.0	210	100.0	264	100.0	411	100.0	446	100.0	1,082	100.0
女性	糖尿病が強く疑われる人	173	7.3	0	0.0	2	0.5	10	2.9	25	5.6	74	14.1	62	11.0	132	8.6
	(うち服薬者)*	73	3.1	0	0.0	0	0.0	3	0.9	5	1.1	38	7.3	27	4.8	55	3.6
	糖尿病の可能性が否定できない人	530	22.2	2	1.7	31	8.0	53	15.3	119	26.6	142	27.2	183	32.6	387	25.1
	上記以外	1,681	70.5	114	98.3	356	91.5	284	81.8	303	67.8	307	58.7	317	56.4	1,023	66.3
	総数	2,384	100.0	116	100.0	389	100.0	347	100.0	447	100.0	523	100.0	562	100.0	1,542	100.0

▼「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」の判定▼

- ①「糖尿病が強く疑われる人」とは、ヘモグロビンA1cの値が6.1%以上、または、質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人である。  
②「糖尿病の可能性を否定できない人」とは、ヘモグロビンA1cの値が5.5%以上、6.1%未満で、①以外の人である。

1-3. 糖尿病が強く疑われる人における治療の状況

糖尿病が強く疑われる人における治療の状況において、現在治療を受けている者の割合は、平成9年、平成14年に比べて増加していた。

図2-1 糖尿病が強く疑われる人における治療の状況の年次推移(20歳以上)

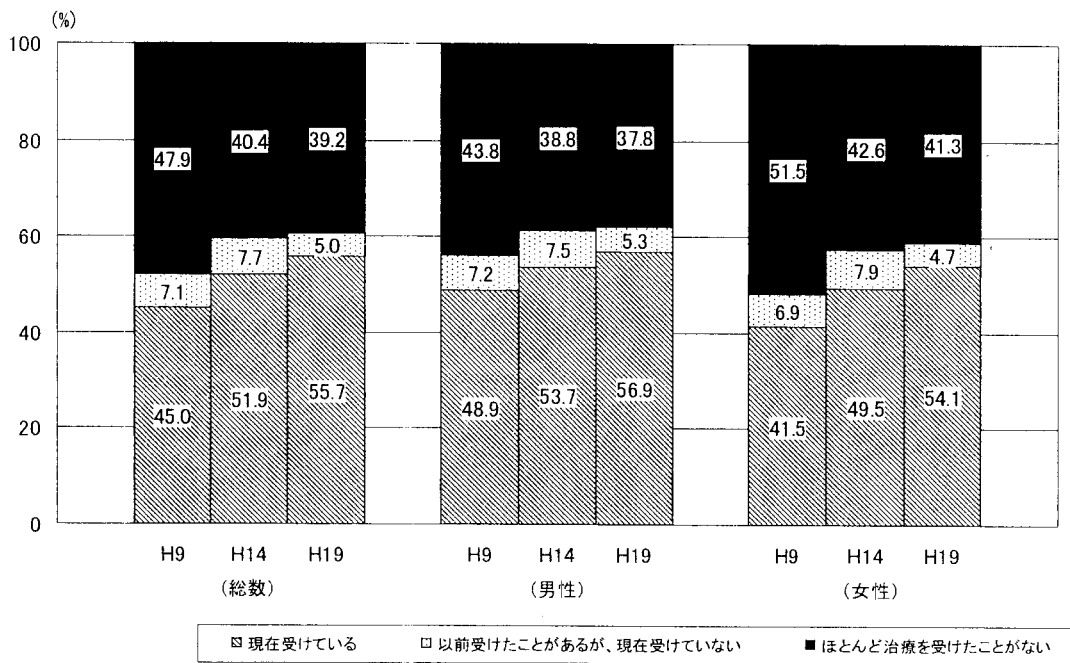
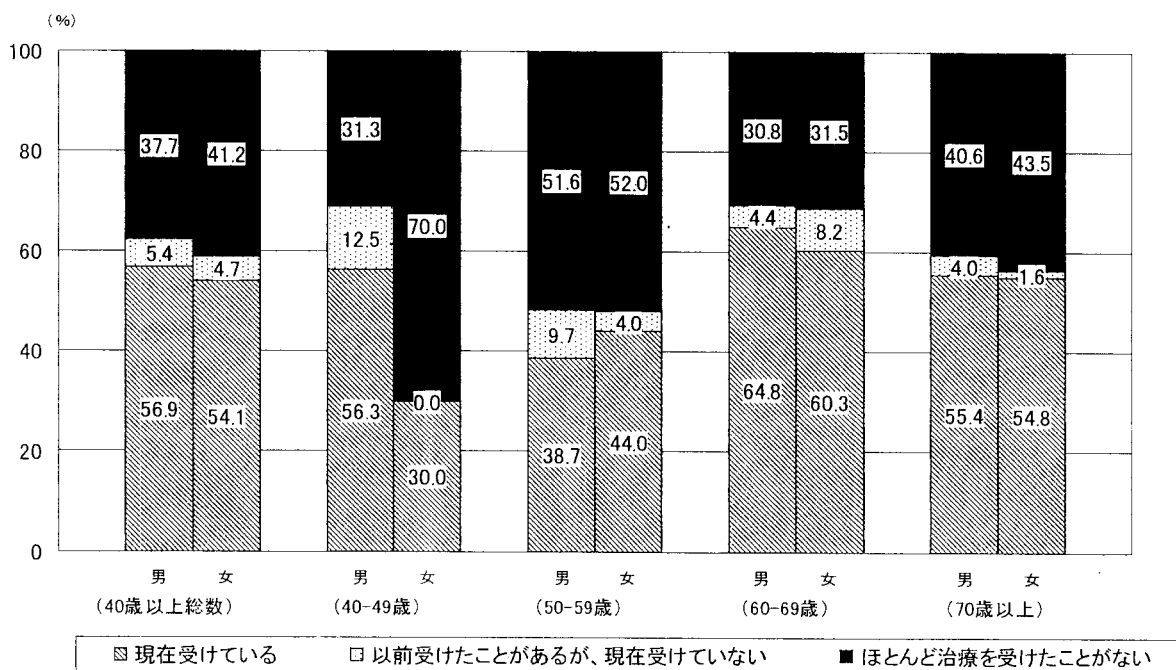


図2-2 糖尿病が強く疑われる人における治療の状況(40歳以上)



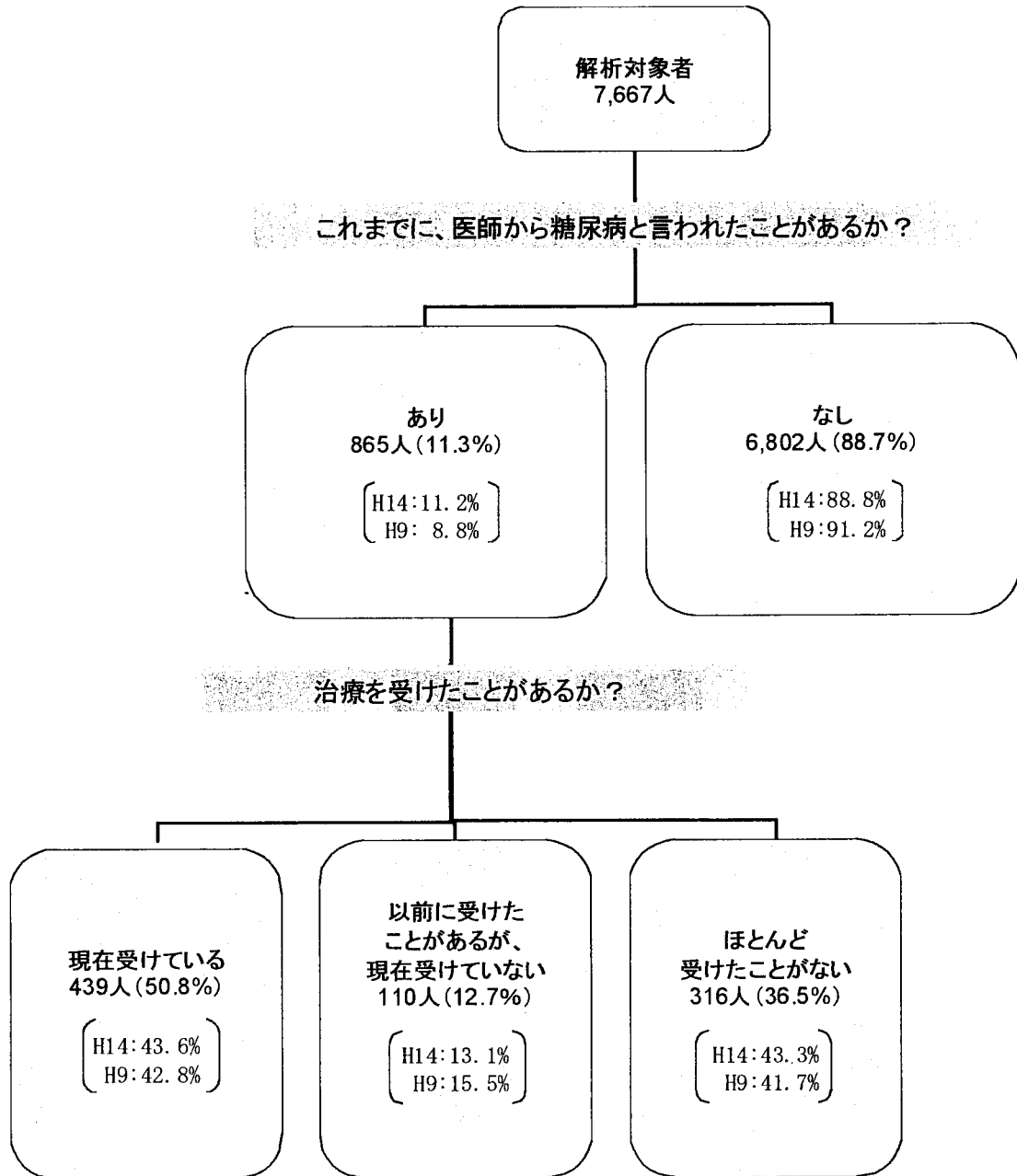
※本報告4頁で示した「糖尿病が強く疑われる者(ヘモグロビンA1cの値が6.1%以上、または、質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人)」について、「糖尿病の治療を受けたことがあるか」という問をまとめた結果である。

なお、図2-1及び図2-2の「ほとんど治療を受けたことがない」は、「医師から糖尿病と言われたことがない」者(男62名、女54名)を含む。

1-4. 糖尿病に関する医療サービス

医師から糖尿病と言われたことがある者（「境界型」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」等のように言われた者も含む）は、平成14年と同水準だったが、「現在治療を受けている」者は増加していた。

図3 糖尿病に関する医療サービスの状況（20歳以上）



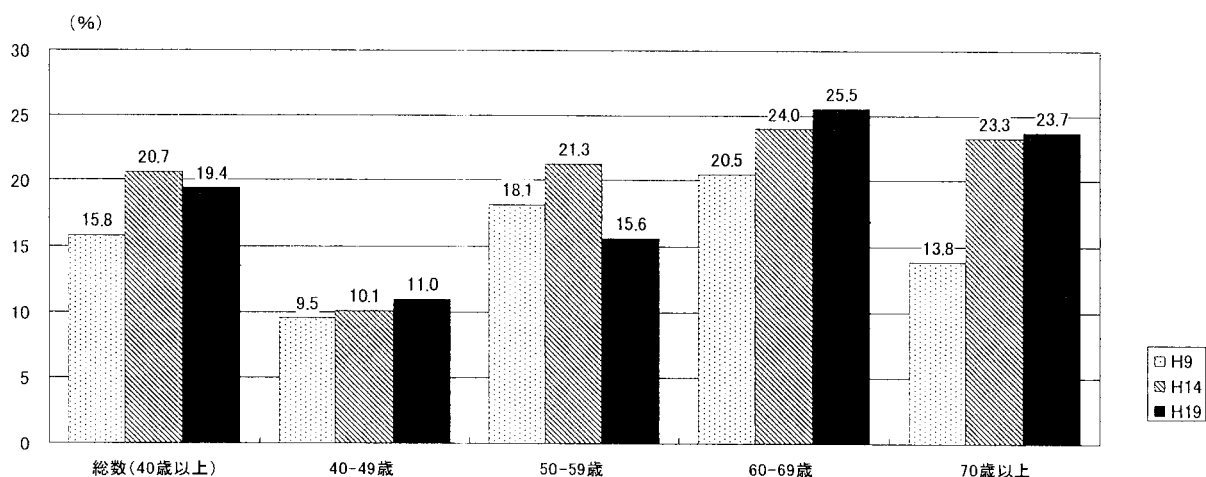


1-5. 医師から糖尿病と言われた者の状況

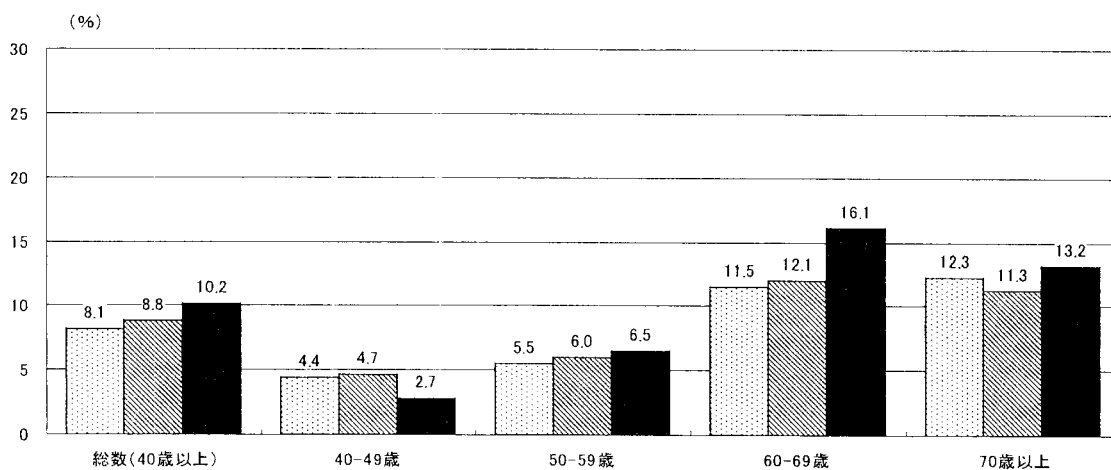
医師から糖尿病と言われた者（「境界型」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」等のように言われた者も含む）の割合は、40歳以上で、男性19.4%、女性10.2%であった。

図4 医師から糖尿病と言われた人の割合の年次推移(40歳以上)

**男**



**女**



※「これまでに医師から糖尿病と言われたことがある」には、「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」等のように言われた人も含まれている。

1-6. 医師から糖尿病と言われた人における合併症の状況

「医師から糖尿病と言われた人における、治療経験別合併症の割合」は、神経障害が最も多く、11.8%であった。また、合併症がある者について、治療の状況を見ると、「現在治療を受けている」者が約7割。

表6 医師から糖尿病と言われた人における合併症の割合 (20歳以上 総数)

神経障害なし	神経障害あり	
757人 (88.2%)	101人 (11.8%)	
	(再掲) 現在治療を受けている	79人 (78.2%)
	(再掲) 以前治療を受けたことがあるが、 現在受けていない	10人 (9.9%)
	(再掲) ほとんど治療をうけたことがない	12人 (11.9%)

網膜症なし	網膜症あり	
766人 (89.4%)	91人 (10.6%)	
	(再掲) 現在治療を受けている	67人 (73.6%)
	(再掲) 以前治療を受けたことがあるが、 現在受けていない	8人 (8.8%)
	(再掲) ほとんど治療をうけたことがない	16人 (17.6%)

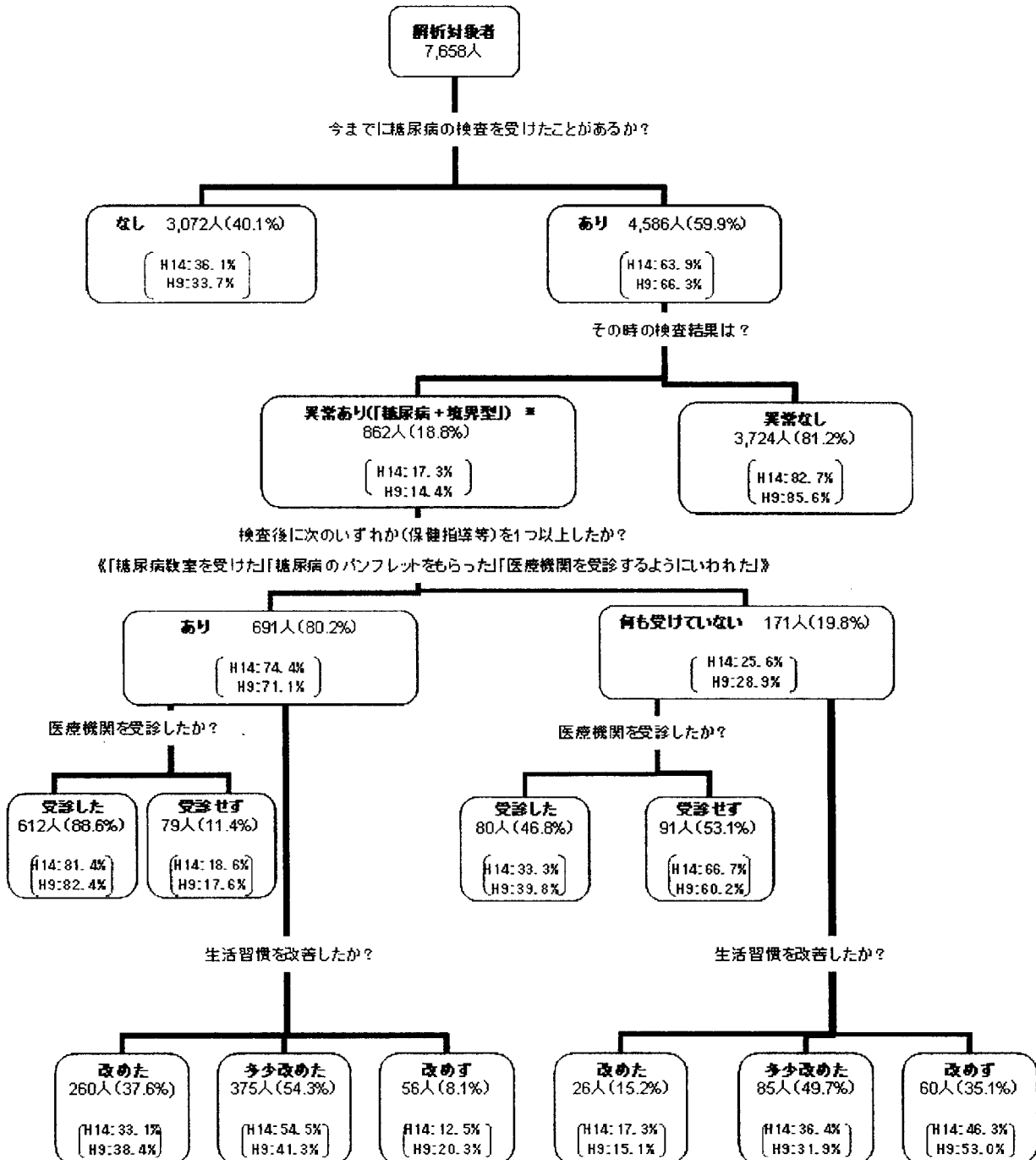
腎症なし	腎症あり	
760人 (88.9%)	95人 (11.1%)	
	(再掲) 現在治療を受けている	70人 (73.7%)
	(再掲) 以前治療を受けたことがあるが、 現在受けていない	9人 (9.5%)
	(再掲) ほとんど治療をうけたことがない	16人 (16.8%)

足壊疽なし	足壊疽あり	
850人 (99.3%)	6人 (0.7%)	
	(再掲) 現在治療を受けている	4人 (66.7%)
	(再掲) 以前治療を受けたことがあるが、 現在受けていない	1人 (16.7%)
	(再掲) ほとんど治療をうけたことがない	1人 (16.7%)

1-7. 糖尿病の検査と保健指導等

これまでに健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがあり、「糖尿病と言われた」者、「境界型」だった者において、検査後に、「糖尿病教室を受けた」、「糖尿病のパンフレットをもらった」、「医療機関を受診するよういわれた」のいずれか1つ以上回答した者の割合は80.2%であった。そのうち、「生活習慣を改めた」と回答した者は約9割であった。

図5 糖尿病の検査と保健指導等（20歳以上）



※ここでいう「異常あり」とは、「糖尿病である」、「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高いなどと言われた者を含む。

1-8. 糖尿病の予防や治療に関する情報源

糖尿病の予防や治療に関する情報源は、男女ともに、「テレビ・ラジオ」、「新聞」、「雑誌・本」と回答した者が多かった（複数回答可）（図6-1）。

項目別に見ると、「テレビ・ラジオ」「雑誌・本」と回答した者の割合は、40～60歳代女性で特に高かった。また、「健診・人間ドック」と回答した者の割合は、50歳以上男性で特に高かった（図6-2）。

図6-1 糖尿病の予防や治療に関する情報源（20歳以上）

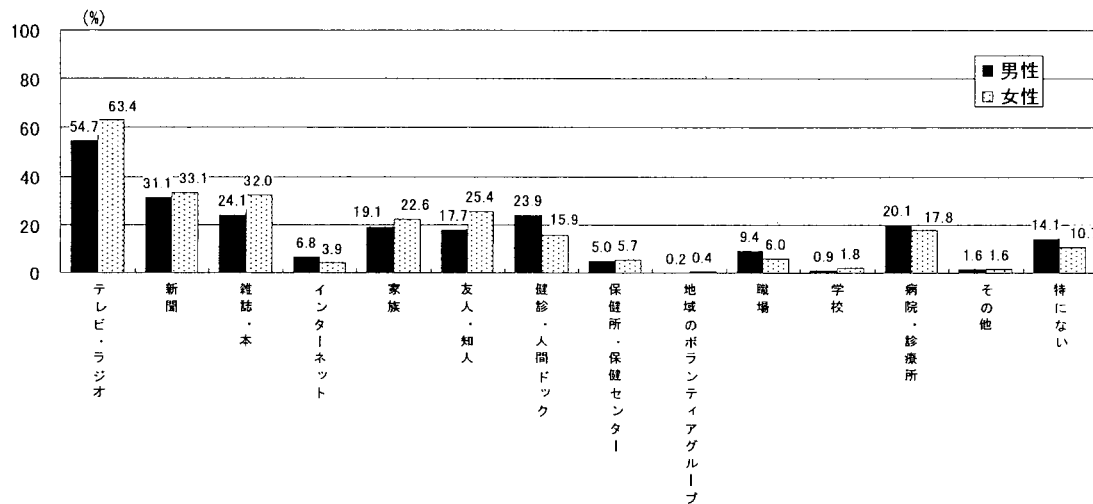


図6-2 糖尿病の予防や治療に関する情報源（項目別）

